
スマブラパラダイス！

ダイヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラパラダイス！

【Nコード】

N1962Z

【作者名】

ダイヤ

【あらすじ】

スマブラメンバー+ がいろんな生活を繰り広げる！！時には事件が起こり時には恋…そしてケンカ…そんなスマブラワールド！またキャラ崩壊があるのでキャラ崩壊が嫌いな方は気をつけてください

始めに…（前書き）

初めての投稿です!!

始めに…

ダイヤ「何だかいきなり始まったー!」

ソニック「何がいきなりだよ」

マリオ「そつだよ!!小説書くまでの道のりが長すぎんだよ!!」

ソニック「この機会音痴!」

ダイヤ「うっせーなー始まりでグチグチグチグチよおしかたねーだ
るこちらと事情があるんだよ」

ソニック「ゲームやってるだけだろ!!」

マリオ「絶対すぐネタ切れてストップするよ」

ソニック「絶対つまらないって殺到するな」

ダイヤ「始まりでそんなに言つな!!書く気が失せる!」

ソニック マリオ「作者が言わせたんだろーが!!」

ダイヤ「…」

次回キャラ紹介!

始めに…（後書き）

感想待ってます

キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介！

キャラ紹介

この小説に出るキャラです

マリオ お馴染みのヒーロー金にがめつくて皆に変な目で見られがち

ルイーシ 永遠の二番手 酷い目に会いやすいが意外と皆に慕われている

ピーチ キノコ王国のお姫様さらわれては助けられるを繰り返す怒ると怖い

クッパ 亀の大王いつもマリオにボコボコにされている 足が遅い

ヨッシー マリオの相棒の恐竜 大食いでカービィと気が合う

ワリオ 下品でメタボな人皆にボコボコにされやすい

ドンキー バナナが好きなゴリラ デイディーとなかがいい

デイディー ドンキーの相棒身が軽い

リンク ハイラルの勇者ゼルダの事が好き

ゼルダ&・シーク 二つの顔を持つリンクの事が好き

ガノンドロフ 皆に気味悪がられてる人 足がむちゃくちゃ遅い

トウーンリンク もう一人のリンク かわいい

サムス バウンディハンター中は女性 怒ると怖い

ピット 天使の男の子 イタズラ好き

ポプ&・ナナ とても仲良しで二人の邪魔をすると大変な事になる

ロボット 心を持っているロボット 頭がいい

カービィ ピンクボール ヨッシーと気が合いなんでも吸い込む

メタナイト 仮面の騎士 仮面をとるとかわいい素顔が…

デデデ 太っている大王 飛ぶことができる

オリマー サラリーマン ピクミンを扱うのが得意

フォックス 雇われ遊撃対ファルコと仲がいい

ファルコ 口が悪い鳥 フォックスと仲がいい

ウルフ ファルコと仲が悪いオオカミ 射撃がうまい

ファルコン 足が速いレーサーとても陽気で明るい

ピカチュウ かわいいポケモン サムスになついてる

レッド 三体のポケモンを持っているトレーナー

ルカリオ 波動の使い手 無口だが優しい

プリン 歌が好きなポケモン とても軽い

マルス 王子様 とても優しく強い

アイク 肉好きな騎士 無口で無愛想だが優しい

ネス 勇気のある少年 超能力が使える

リュカ 弱虫な少年 ネスとレッドと仲がいい

ウォッチ ペラペラな人 皆の大先輩

スネーク 傭兵 危険なものを沢山持ち歩いている

ソニック 音速の針鼠 この小説の主要ポジションにいる

シルバー + の人(?) 正義感がある 未来からきた針鼠 超能力が使える

シャドウ + の人(?) クールで無口 たまにキャラが壊れる

ダイヤ 作者 いきなり現れる人

キャラ紹介（後書き）

この小説はソニックとシルバーとシャドウの出番が多いです

いきなり

マリオ「…」

スネーク「…」

ソニック「…」

ダイヤ「何ずっと黙ってたよてめーら」

ソニック「ん…ちょっと題名のことを…」

ダイヤ「それで？」

マリオ「なんなの？この何処かのいかれた人がちょっとしたパーティーとかでもいちいちつまらないワンパターンのギャグをやるようなこのスマブラパライスって題名」

ダイヤ「無駄に具体的に何を言いたいかわかんねーよ」

スネーク「簡単にはネームセンスがないと言っているんだ」

ダイヤ「悪かったね」

スネーク「悪い」

マリオ「ってかなんだよいきなりこの変な始まりかた」

ダイヤ「お前らが始めたんだろーが」

ソニック「だつてなあ…」

????? ????「作者」

ダイヤ「おお来たか!!」

ソニック「誰？」

シルバー「久しぶりだな!!」

シャドウ「…」

ソニック「何故にお前らー!?」

ダイヤ「俺が呼んだ」

マリオ「何胸はって言ってんだよ」

ルイージ「てか女なのに俺って…」

ダイヤ「こっちの方が性に合うんだよ!!」

バキッ ダイヤのキックルイージに炸裂

ルイージ「…（気絶）」

シルバー「もう少し女の子らしい口調で書いたらどうなんだ？」

ダイヤ「はあ!?（怒）」

シルバー「す…すいません…」

ダイヤ「ふん」

ソニック「てかいきなり作者の出番多すぎたろ」

マリオ「全くだね話が変わし」

ダイヤ「…終了」

皆「ええ!?!」

いきなり（後書き）

最初からグダグダです…

重火器

マリオ「作者あ」

ダイヤ「キモイ…」

マリオ「ひでえな！」

ダイヤ「悪かったね　で？何か用？」

マリオ「ああ…実は最近変な噂があるんだよ…」

ダイヤ「へえ、どんな？」

マリオ「作者が最近変な物騒なものを持ってると…」

ダイヤ「ああ…これかい？」

マリオ「（-_-;）」

ダイヤ「なんだよその顔」

マリオ「普通なるわ！」

因みに今作者が持っているのはC-4爆弾

マリオ「スネークから貰ったのか？」

ダイヤ「ううんマスターから貰ったのを少し火薬を増やしたんだ」

マリオ「恐ろしい…」

ダイヤ「今はこれだけしか持っていないが家にはロケットランチャー
やらマグナム ライフル マシンガン ショットガン グレネード
ランチャー 火炎放射…」

マリオ「もういいよ！！ってかどんだけ物騒なもの持ってんの？」

ダイヤ「まだ沢山あるのに…（ってかききにくるのがシルバーかシ
ヤドウだったら嬉しかったのに…）」

マリオ「聞こえてるぞ」

ダイヤ「なんでシルバーかシャドウ又はソニックじゃないの？」

マリオ「皆ききにくるのが怖くてジャンケンで負けた俺がきた」

ダイヤ「ちっ…」

マリオ「なんでそんな物を持つてる」

ダイヤ「マスターの家に火炎放射器持ってたらくれた」

マリオ「確実に脅しただろ」

ダイヤ「ちょっと火吹いただけだよ!!」

マリオ「御愁傷様…」

ダイヤ「もういいか？」

マリオ「ああ…しかしまたこんな話とは…」

ダイヤ「またとは失礼なバイオハザードやってたら思い付いたんだよ」

マリオ「裏話はいいから」

こうして作者は帰っていきました

重火器（後書き）

物騒だ…

寝起き（前書き）

作者のイタズラだ！

寝起き

只今朝の6時です（小説の中で）

ダイヤ「今回はあの人をいきなり起こしたらどんな反応をするか調べます」

調べるキャラは ソニックシャドウ シルバー マリオ ルイージです

フォックス「お馴染みのキャラか（＋ を除く）」

ダイヤ「なんで居るんだよ」

フォックス「声が聞こえたから」

ダイヤ「この事誰かにばらしたら殺しちゃうよ?」

フォックス「はい!!! 誰にも言いません!（汗）」

そんなこんなでまずはソニックの家

ダイヤ「どうやって起こそうか…ロケットランチャーはやりすぎだし…マグナムとかも危ないし…」

銃使つのが危ないと思わないのだろうか

ダイヤ「そうだ」

そしてダイヤが持つて来たのは水の入ったバケツ

ダイヤ「よいしょ（^ー^；）」
ひょいっ ソニックを持った音

ダイヤ「それ」

トボーーーーン！！

ソニック「うわあああああ！！」

水の入ったバケツに頭から突っ込んだソニック物凄い声をあげている

ダイヤ「グッド（・・ハ*）」

ソニック「何すんだよいきなり!？」

ダイヤ「モーニングコールだよー最高の目覚めだな」

ソニック「最悪の目覚めだ!ところでどこ行くんだ?」

ダイヤ「次はシルバーだよー(^ | ^ ;)」

ソニック「ついていていいか?」

ダイヤ「勿論!」

シルバーの家に到着

シルバー「Zzzz・・・」

ダイヤ「シルバーは...」

作者が取り出したもの バット ガラス

バットとガラスをシルバーの近くに持っていく...

ダイヤ「ソニックガラス持ってた!」

ソニック「はいはい」

ダイヤ「せーの」

ガシャアアアアン！！

バットをフルスイングしてガラスは簡単に割れた

シルバー「うわ！？」

ガラスが割れた音で起きたが割れたガラスの破片がシルバーに！

シルバー「はあー！！」 超能力で破片を止めた

ダイヤ「おお！！これこれ！！」

シルバーの超能力を見たくてガラスを割った作者因みにガラスの破片の被害はソニックも巻き添えになりました

ソニック「…」

ダイヤ「次いこー」

シルバー「何してるかは知らないがついていっていいか？」

ダイヤ「勿論！」

シャドウの家

シャドウ「…」

ダイヤ「シャドウも起きてんじゃんつまない（――；）」

シャドウは既に起きていた

ダイヤ「じゃあ後ろから…」

作者はそっーとシャドウ後ろに行った

ダイヤ「おっはよー！ー！ー！ー！」 シャドウに抱きつきながら（笑）

シャドウ「うわっ！？」

ソニック「シャドウがびっくりするとは…」

ダイヤ「次はマリオの家だよーシャドウも行こー」

シャドウ「ああ」

マリオ（ルイージ）の家

マリオ「zzz・・・」

ダイヤ「起きろー！」

作者はマリオに向かって飛び蹴りをした勿論命中

マリオ「…何をする…」

ダイヤ「起こしたんだ感謝しろ 最後はルイージだ！」

マリオ「俺も…」

ダイヤ「ダメダメ」

マリオ「…はい」

ルイージの部屋

ダイヤ「よし！行つてこい針鼠！..」

3人「なにいいい！？」

シャドウ「なんで僕達が...」

ダイヤ「速く行け」

ドンツ！！　ダイヤがソニック達をおした

3人「うわああ！..」

ぐしゃ！

3人はルイージの腹の上にダイブしたその結果ルイージは気絶した
(また？)

ダイヤ「さー帰ろー（^ー^；）」

3人「はい…」

因みにルイージは5時間後にさましたよー

寝起き（後書き）

感想待ってまーす

+ とお話し（前書き）

+ とお話しだよー

+ とお話し

ダイヤ「ヤバイようネタ切れだYO！（＾－＾）／」

シルバー「書いてんじゃんそして最後が変だよ！？」

ダイヤ「ネタ切れをネタにしたのさ！！」

シルバー「意味不ー！」

ダイヤ「叫ばなくてもいいんだよシルバー君（＾＾；）」

シルバー「ごめんなさいごめんなさい」

ダイヤ「まあシルバーなら許すよー 因みにシャドウもね」

シルバー「ソニックは…？」

ダイヤ「時による（ー；）」

シルバー「何故？ソニックファンだろ！？」

ダイヤ「そうだけどさー（ー；）シルバーとシャドウに比べると

な〜」

シルバー「でもお前シャドウが一番好きだったじゃん」

ダイヤ「お前は性格が最高なんだ…って俺のオタクぽい話になってるよー!?!」

シルバー「確かに読んでは読者様は「何話してんの自分はお前のオタクの話聞きに来たんじゃないよ」って思われてるな」

ダイヤ「酷すぎるよ!」

読んでくれている皆様誠に申し訳ありません私のオタク話を聴いてくれて

シャドウ「話してしまったものは仕方がない」

ダイヤ「シャドウじゃん!」

シャドウ「…」

ダイヤ「何黙ってんのさ」

シャドウ「いや僕は元から…」

ダイヤ「キャラ変えちゃうぞー(ー・・・)」

シャドウ「すいません!!(汗)」

シルバー「ビミョーなキャラ崩壊だな…ってか作者の力って怖え…」

ダイヤ「(^ ^) (^ - ^) / (ー・・) (ノ・・) ノ
」

シルバー「作者壊れたー!?! なんなのいきなり?」

ダイヤ「即興ネタもきれたYO! () 」

シルバー「その最後の英語やめろ!! 変だし!」

シャドウ「やれやれこの作者は…」

バキッ! ダイヤのキック炸裂

シャドウ「…」(痛みに耐えてる)

シルバー「おいおいおい！シャドウはやらないんじゃないのか？」

ダイヤ「ソニックと間違えたんだよ」

シルバー「うそだ！」

こうしてトークは終わった

シャドウ「どうして僕が…」

+ とお話し（後書き）

感想待ってます

大バトル！（前書き）

なんかいきなり出てきたネタ！！

大バトル！

ダイヤ「えー今日は晴天なり…」

皆「無駄な事はいいから！！」

ダイヤ「ちえゝ（ー；）」

マルス「はやく続きを言って」

ダイヤ「はいはい…今回はマスター & a m p ・クレイジーの提案で
大乱闘するから」

皆「説明テキトオオオ！！」

リュカ「マトモに説明してよ」

ファルコ「読んでる読者様に謝れ！」

ダイヤ「皆さんさーせんした」

マリオ「ばっかやろあ！！」

ダイヤ「ぐは!!」パンチくらった

マリオ「マトモに謝れ」

ダイヤ「皆様すいません!!」

マリオ「よしじゃあ大乱闘やろー!」

皆「おおー!」

ダイヤ「あ、その事なんだけど皆の戦い書くのぶっちゃけめんどくさいから今回は特別制のステージでマリオ ルイージ ソニック シャドウ シルバーそしてオマケのサムスで戦うよー」

皆「ええー!!!!」

サムス「オマケって…まあ出ればいいか…」

ヨッシー「ヒーローとかはいいなーひいきされて」

オリマー「完璧ソニックさん達ひいきされてます特にシルバーさんとシャドウさん」

その分ソニックにはイタズラも酷いけどねー

ダイヤ「誰か文句あり？」

6人以外「ある〜〜〜」

ダイヤ「この戦いのルールと俺がキャラのひいきしてる事に文句ある？」 マシンガン構えてる

6人「ありません！！（汗）」

ダイヤ「じゃあ始めーちよっとまって！」

皆「何だよ！？」

ダイヤ「風呂入ってくる！」

皆「はあ！？（。□）」

ダイヤ「ごめそ（^・^）／」

30分後

ダイヤ「スッキリしたー（^ー^・）」 マジではいつてきました

フォックス「現実でのマジ話書くな!!」

ダイヤ「うるせーよ狐が」

フォックス「…」

ダイヤ「じゃあ今度こそー」

皆「やっとか…」

ダイヤ「ってもうこんな時間に!寝ないと!!」

皆「なにいい!!」

リンク「ちよつと待て作者!」

ダイヤ「無理」

ダイヤ「では次回はバトルです」

皆「絞められたー」

大バトル！（後書き）

次回はバトルー

因みに作者は現実世界でもあんな性格です

バトルだぜ！！（前書き）

今度こそバトルです（手抜きですが）

バトルだぜ！！

ダイヤ「今度こそバトル始め！」

6人「よっしゃ〜〜〜！」

マリオ「ファイアボール！」

ルイージ「同じくファイアボール！」

サムス「チャージショット！」

ソニック「ホーミングアタック！」

シルバー「サイコスマッシュ！」

シャドウ「何故僕狙い！？」

ダイヤ「皆シャドウに攻撃だー（＾―＾・）」

シャドウ「なんで笑ってるんだグルだろ作者!？」

ダイヤ「失礼な、グルじゃないよー（^ー^:）」

シャドウ「まあ避ければいいんだが」

ひよい シャドウが避けた音

ボーーーーン

ダイヤ「シャドウ以外相討ちー!!」

シャドウ「単純な攻撃だな…」

ダイヤ「んなこと言っていないではやく戦闘に入れよーこっちに苦情
殺到すんだよ（ー:）」

シャドウ「…」

マリオ「簡単に避けられるとは…」

他のキャラ「怖え」

因みに近くにいたマスター & amp・クレイジーも被害を受けたとか

ダイヤ「あー5人が吹っ飛ばされましたー勝者はサムス」

サムス「やった!」

ダイヤ「じゃあ吹っ飛ばされた人を探してきてね!」

サムス「ええ!」

ダイヤ「ん?(^|^;)」 火炎放射器持つてる

サムス「いつてきまーす」

ダイヤ「他の人は?」

他のキャラ達「いつてきまーす」

その後全員見つかったが全員が見つかったのは4時間後でした

見つかった順番

シルバー マリオ ソニック ルイージ シャドウ

シルバーはすぐ近くの原っぱ

マリオはバトル場の近くにある公園

ソニックは少し遠い海（笑）

ルイージはかなり遠い山のふもと

シャドウはかなり遠い山の山頂で見つけた（どんだけ飛ばされてんだ）

シルバーとマリオは軽いですんだが海に落ちて溺れかけたソニックとかなり遠くに飛ばされたルイージ シャドウはケガの治療が大変だったとか（ソニックは落ち着かせるのが）

その夜

ダイヤ「えい！」

バキッ！！ シャドウとルイージの傷口を蹴った

シャドウ「痛！」

ルイージ「痛い痛い！！！」

ダイヤ「男なら頑張って（＊ ＊）」

ドドドドドドド！！ 連続キック

シャドウ ルイージ「…（気絶した）」

ダイヤ「つまない（ー；；）」

ダイヤ「シルバーかマリオ蹴らせてー」

シルバー マリオ「勘弁して…」

ダイヤ「じゃあソニックに…」

ソニック「やめてくれ」

ダイヤ「じゃあどおしろってんだよめーらー!!」

シャドウ ルイージ以外「逆ギレしたー!!」

ダイヤ「めーら全員まとめて死ねー!!」 マシンガン乱射中

30分後その場には気絶した皆と目が覚めて状況理解が出来ないルイージとシャドウがいた

ルイージ「なにこれ…」

シャドウ「僕達が気絶してる間になにがあっただ…」

ダイヤ「気にしないでいいよー(^ー^:)」

二人「気にするわ!」

ダイヤ「とりあえず今日は寝よー俺はシャドウの所に泊まるから」

シャドウ「何故!?!」

ダイヤ「普段はシルバーの所に泊まってるけどシルバー気絶してるから」

ルイージ「作者なのに家無いの!?!」

ダイヤ「うん」

シャドウ「はあ…」

こうして一日の幕が降りた

バトルだぜ!! (後書き)

感想待ってまーす

更新（前書き）

ネタが…そしてサブタイトルが…

更新

マリオ「おいこら作者」

ダイヤ「なんだよ」

リンク「更新が遅すぎる」

ダイヤ「ネタがないから仕方ないだろ」

ルイーダ「もうひとつの方ではかなり更新しているじゃん！」

ダイヤ「そりゃあね」

リユカ「僕達の出番が少ないのに忘れられたらたまらないよ……」

マルス「そつだそつだ！僕らの出番が少ないのにその上更新も遅いなんて！」

ダイヤ「笑いが取れなかったら意味がないんだから仕方無いだろ！
！」

皆「とれてないだろどうせ…」

ダイヤ「うるさいなお前らはあいつらを見習え！」

今作者が指差しているのはソニック達

ルイージ「いやソニックはもうひとつの小説の主役だしシャドウとシルバーもメインだし…」

ファルコ「こっちの身になってみる」

ダイヤ「なれたら苦労しねーよばか鳥が」

ファルコ「…（；）」

皆「ひでえ毒舌…」

ダイヤ「にしてもネタ切れって怖いな」

皆「作者の方がもつと怖いよ…」

ダイヤ「…（*^|^*）」

皆「ヤバイ！！死んだかも…」

ダイヤ「貴様らしにくされー！！」

ババババババ！！！！ 作者がマシンガンを乱射してる

皆「うわあああああああああー！！」

ソニック「…作者ってすごいな…」（小声）「

シルバー「機嫌そこねたら終わるな…」（小声）「

シャドウ「あいつらみたいにな…」（小声）「

被害に会わなかった3人は気絶してる皆を見ているのでした…

更新（後書き）

この小説はネタ切れ中は休止となっております

準備（前書き）

クリスマスー…

準備

ダイヤ「皆！今日はクリスマスパーティーの準備だ！」

皆「少し早くね？」

ダイヤ「まあ気にすんな」

皆「まあいいか…」

ダイヤ「マスターワープして」

マスター「おうよ！」

シュン！

会場内

ダイヤ「ここだー！！」

皆「おおー…」

ダイヤ「ここで飾り付け、料理、飲み物、そうじ等々を調達 準備
をしてもらう」

皆「はい」

飾り付け係 ダイヤ ソニック シルバー シャドウ ネス リュ
カ ポケモン組 アイス クライマー

料理係 サムス ゼルダ
リンク ピーチ トレーナー オリマー

飲み物係 フォックス組 カービィ組 余ったマリオ組

そうじ係 余っている剣士組 がノン ロボット ウォッチ ファ
ルコン スネーク ピット

皆「飾り付け作者の好きなキャラだけじゃん…」

ダイヤ「ん？（ハ・ハ）」

皆「いえなんでも…」

ルイージ「ねえ作者…」

ダイヤ「何？」

ルイージ「ピーチ姫の料理食べれるの兄さんだけだよ…」

ダイヤ「あつ…やべっ忘れてたまあ頑張れ！」

ルイージ「無理無理！」

ダイヤ「さー準備しよー」

皆「おー」

ルイージ「ええ！？シカト？」

ピーチ「行きましょー」

料理係「…はい」

ピーチがキッチンに向かって行くときマリオ以外のキャラは青ざめていた…

次回準備中の…

準備中〜飾り付け係〜（前書き）

飾り付け係の…

準備中〜飾り付け係〜

ダイヤ「ああして、こうして…」

ソニック「シルバーこれ頼むぜ!」

シルバー「任せろ」

飾り付けは高いところは超能力が使えるシルバー
ネス リュカ
に任せている

プリン「私背が低いから全然手伝えないプリ…」

ピカチュウ「ピカ…」

ルカリオ「まあ仕方ないな。」

ポケモン組も和気あいあいとしている

ポポ「この飾り可愛い」

ナナ「本当だ可愛い」

アイスクライマーはクリスマスツリーの飾りしながらを話し合っていた

ダイヤ「ネス、これお願い」

ネス「いいよ」

シャドウ「リュカ頼むぞ」

リュカ「うん」

50分後準備が終わった

ルカリオ「なかなか綺麗だな」

リュカ「そうだね」

ポポ「凄い凄い!!」

ナナ「豪華な感じになったね」

ダイヤ「よしよし! いいねじゃあ少し休憩を…」

ドカーーーーーン!!!!!!

皆「!?!」

なんと準備し終わった会場に何かが突っ込んできたお陰で会場はメチャクチャになってしまった

ナナ「あゝ!! せっかく飾ったのに!!」

シルバー「あゝあ会場メチャクチャ…」

シャドウ「何が起こったんだ?」

ソニック「つか作者がキレないかが心配だ…」

シャドウ シルバー「確かに…」

ピカチュウ「ピカ…!」

ダイヤ「ん？あれは…」

そこにいたのは…

皆「ワリオ!？」

ワリオ「痛って…」

皆「多分ワリオ死んだな…」

ダイヤ「ワリオ…自分の仕事は？」

ワリオ「他の奴等に任せとけばいいだろ」

ダイヤ「仕事はサボり会場メチャクチャにしゃがって…」

ネス「そつだよせつかくやったのに!!」

リュカ「酷いよ!」

ルカリオ「少しこらしめた方がいらしいな…」

ワリオ「何なんだ!俺がなにをしたってんだ!!」

シルバー「反省もしてないとはな…」

シャドウ「…」

皆メチャクチャキれている(当たり前か)

皆「死ねえええ!!!」

皆怒りがワリオにぶつかったなんでワリオがここに突っ込んできた
かは次回！

準備中、飲み物係、（前書き）

飲み物係

準備中ゝ飲み物係ゝ

こちらは飲み物係

ウルフ「ふう…重いな」

デデデ「そうか？」

カービィ「ほ。よ…」

マリオ「…てかワリオは？」

ルイージ「サボリじゃない？（…）」

マリオ「チクるか」

皆「勿論」

その時ワリオは…

ワリオ「うおおお!!」

バイクで爆走していた

ワリオ「準備なんかしてられるか!!」

ブスン…

ワリオ「いきなりエンジンがいかれた…あ!!会場に突っ込めば止まるな!!」

作者に殺されるよ?

ワリオ「俺様はカッコいいから平気だ許される」

キモ…

ワリオ「ウルサーイ!!」

そして

ドカーーン!!!!!!

そして…

マリオ「ダイヤ帰ったぞ」

ルイージ「ダイヤワリオが…」

マリオ達が見たのはフルボッコされてるワリオ

マリオ「な〜んだチクる必要なかったか（^ - ^）」

ルイージ「そうだね兄さん（^ - ^）」

メタナイト「しかしどうしてワリオが此処にいるんだ」

ダイヤ「カクカクしかじか」

シカクイムーブコンテトレビアン　ダイハツ

フォックス「なんか変なナレーターが入ってたけど気にしないでなるほどな」

ファルコ「自分だけ楽しやがって…」

ウルフ「おまけに会場メチャクチャかよ…」

マリオ「俺達も行くか」

皆「ああ」

会場メチャクチャにしたことと仕事をサボった事で怒っているひとがふえている

ルイージ「僕達も入れて」

ソニック「ああ！いいよな作者！」

ダイヤ「勿論　さー行くよー」

皆「お〜！」

ワリオ「…（瀕死）」

次回は料理係！

準備中、飲み物係、（後書き）

ワリオはこれからも血祭り

準備中〜料理係〜（前書き）

料理係です

準備中〜料理係〜

料理係はリンク トレーナー オリマー ピーチ ゼルダ サムスだ

オリマー「出来ました」

ゼルダ「こつちもできたわ」

サムス「同じく」

ピーチ「私もできたわ」

皆「え!?(。°。°)」

皆が見たピーチの料理は得体のしれないもので食べたら大変な事になりそうだ

ピーチ「どうかしら?」

トレーナー「マリオにプレゼントしなよ！」

マリオはピーチの料理を食べても美味しいと言っいわば味音痴だ

サムス「さて、メインのケーキを作りますか」

ピーチ「私作りましょうか？」

皆「…」

リンク「ケーキはこっちでなんとかしますからピーチさんはなんか好きなもの作って下さい」

ピーチ「わかったわ」

ピーチはキッチンの奥の方に行き…

ドンっ！！ ガキっ！！ ぐしゃ！！ ゴリ！！ ボキ！！ ピロ
リン！！ ポコッ！！ シャキーンシャキーン！！

謎の音が聞こえてきた

リンク「後半の音がおかしくないか？」

サムス「なに作ってるのかな…」

ピコっ！ ポン！ パンっ！

オリマー「…」

この時皆が思った

「今日無事に生きて帰れるかな？」

そんな思いを気にせず謎の音は今も聞こえてくる皆が無事に帰れるかはクリスマスパーティー本番にわかる

ゴキッ！！

準備中〜料理係〜（後書き）

冬休みだー！！

早めにパーティー（前書き）

クリスマスパーティーやっちゃいます

早めにパーティー

ダイヤ「クリスマスパーティーだよー（＾－＾）」

ソニック「おい今日はまだ23日だぞ!？」

マリオ「早いよ!！」

ダイヤ「いやゝ実は明日は友達の家クリパやるからさゝ書けないかもだから…」

シルバー「一日はやく…?」

ダイヤ「そゆこと」

皆「なるほど」

シャドウ「掃除係の話は…?」

ダイヤ「カット（…）」

掃除係の人「え!?(。°。°)」

ダイヤ「まあネタが思いつかなかったし…」

皆「流石に可哀想じゃね?」

ダイヤ「うーん…じゃあクリスマスプレゼントとして…」

皆「として…?」

ダイヤ「ワリオをボコボコにさせてあげる権利を上げよう!」
サ
ボった事を話した

掃除係の人「イエーイ!」

それ以外の皆「いいな」

ダイヤ「じゃあ他の人もいいよ」

皆「イエーイ!!」

因みにワリオは今縛り付けされてます

ダイヤ「皆いくぞー！」

皆「うおー」

しばらくお待ちください

ダイヤ「さあパーティー開始だ（＾－＾）」

ピーチ「料理よー」

皆「…」

ピーチが持ってきた料理は見た目は豪華だが所々に黒い物体があった

ダイヤ「いただきます」

皆「いただきます…」

皆は黒い物体をよけて料理を食べている（マリオはお構い無しだが）

マリオ「これ食べば？上手いよ？」

リンク「遠慮するよ…」

ダイヤ「ワリオが食べたがつてるよ」

マリオ「はいワリオ」

ワリオ「…」

ダイヤ「食べよ」

ワリオ「…」

ダイヤ「おい」

ワリオ「…」

ダイヤ「ブチッ」

その後ワリオは無理矢理料理を食べさせられました

料理を食べ終わり…

ワリオ「…（チーン）」

皆「ワリオ死んでる…」

ピーチ「メインのケーキよー（＾－＾）」

皆「…」

ダイヤ「皆！ケーキはゼルダが作ったから安心しろ」

皆「ホッ…」

マリオ「なんで安心した？」

皆「何でって…」

ピーチ「はい」

皆「ありがとう」

ケーキを皆で切り分け…

ダイヤ「食べようか」

皆「はい」

ソニック「ん…？甘いのが好きなダイヤが食べようとして無い…？
危ないからやめておこう」

パクッ

ネス「なにこれ！？」

ピット「フラフラする…」

ルイージ「頭いたい…」

ソニック「作者なんかしただろ」

ダイヤ「ばれた？ケーキを作ってる途中こっそリアルコールをいれたんだよ（^- - ^）」

ソニック「。。。」

えー今の状況

ソニックはダイヤがケーキを食べない事から変を感じ難を逃れた

ルイージやネスなどの子供達は気絶（ルイージは子供じゃ無いが）

女性達は顔を真っ赤にして座っている

ガノンやクッパなどのオッサンは兎に角暴れてる

マリオは裸になって暴れてる

ソニック「マリオの事アウトすぎだろー！？」

皆様すいません

シャドウは…

シャドウ「僕は何も感じないが…」

首を傾げながら一口ずつ食べているシャドウ

ダイヤ「究極生命体って酔わないの？つまんないの……」

シャドウ「……？」

シルバーは顔を真っ赤にして……

ソニック「Heyシルバー大丈夫か……」

シルバー「……」

ギユ……

ソニック「え……ええええええええええ！？」

なんとソニックに抱きついてしまった

ソニック「ちよっ…作者！」

ダイヤ「シルバーは酔うと抱き魔になる…と（…）メモメモ」

ソニック「メモってないで助けるー！」

ダイヤ「がんば（^ー^）」

ソニック「お…おい！！シャドウ何とかしてくれ…」

シャドウ「僕には関係無いな」

ソニック「あっ…！！おいこら…！！」

シルバー「うるさい…」

ソニック「あ…すまん…じゃねえよ離せよ…！！」

その後シルバーは酔いが覚めるまでソニックを離しませんでした

次の日…

ルイージ「頭いたい…」

リュカ「ガンガンする…」

ダイヤ ソニック シャドウ以外二日酔いになってしまった

シルバー「頭が…ってか俺ケーキ食ったあと何してた？」

ダイヤ「ソニックを…」

ソニック「頼む！言わないでくれ！！シルバーも思い出そうとしな
くていい！」

シルバー「…？」

ダイヤ「へいへい」

そんなやり取りをみつつシャドウは軽く笑っていた

早めにパーティー（後書き）

なんか最近感想こないな…自分はへっぽこなんだろうか…

シルバーの悲惨 俺もだよソニック（前書き）

今回はシルバーとソニックが主役ですー応

シルバーの悲惨 俺もだよboyソニック

シルバー「頭が…まだ痛む…」

ダイヤ「まだかよ」

前回のアルコール入りケーキを食べていまだに二日酔いのシルバー
(その他一部も続いている)

ソニック「……」

シャドウ「いまだに気にしてるのか貴様」

ソニック「…だってよ…」

マリオ「なんなんだお前ら」

ルイーザ「ソニック何かあったの?…気持ち悪…」

ダイヤ「ルイーザもかよ…」

ルイージ「ってかなんなんだあのケーキは…」

ダイヤ「…さあなんなんだろうな…」

シルバー「…（寝込んでます）」

シルバーは一番二日酔いが酷いです

ダイヤ「そうだ」

15分後…

ダイヤ「シルバー薬だよー」

シルバー「ありがとな作者」

ごくごく 薬飲んでる

シルバー「な…なんだこれ!？」

ダイヤ「はやく飲め」

グイッ 一気に飲みました

シルバー「…」

ダイヤ「ソニック」

ソニック「なんだ?」

ダイヤ「少しシルバーの面倒見てくれないか?」

ソニック「ああ…」

マルス「作者の目が怪しい…」

アイク「だな…(…;)ソニック頑張れ」

シルバーの家

ソニック「シルバー平気か…？」

シルバー「ん…」

ソニック「…！？」

またまたシルバーの顔が真っ赤になっているしかしソニックは気づいてない…

シルバーが酔っていることに…

別の場所

ダイヤ「誰かカメラ貸して」

マリオ「はい」

ダイヤ「ありがとな」

ルイージ「なにとるの？」

ダイヤ「来るかい？」

二人「ああ」

ダイヤ「シャドウもな」

シャドウ「ああ」

一応言っておくがダイヤはシルバーにまたまた酒を飲ましたしかも強いやつ

シルバーの家

シルバー「…」

ソニック「風引いたかシルバー!？」

全然気づかないソニック

シルバー「…ソニック」

ソニック「ん？」

シルバー「お前さ…」

ソニック「なんだ？」

シルバー「可愛いな…」
ギュッ

ソニック「…またかああああ!?!つてかなんで酔ってたんだよお前
!!まだ14だろ!?!シルバー!?!」

裏

マリオ ルイージ「あああああ！！
（。°）」

マリオ「ホモだあああああ！！」

シャドウ「酔っているだけだ」

ルイージ「作者…」

ダイヤ「今だな」

カシャッ

ダイヤ「よし2回目の抱きいただき」

マリオ ルイージ「二回目！！?？」

ソニック「シルバー！離せよ！！おい！」

シルバー「ん…」

ギユウ…

ソニック「離せえええ！！！」

仲間思いのソニック手は出せない

シルバー「…」

ソニック「…（泣）」

シャドウ「ソニック死んでるな…」

ダイヤ「…」

シルバーはその後5時間抱き締めたとか（笑）

シルバーの悲惨 俺もだよソニック（後書き）

えー男同士の抱き締めなどいれて誠に申し訳ありません

ワリオのあだな

マリオ「暇だな」

ルイーダ「暇だね…」

マリオ「だからと言ってイタズラは困るが」

ルイーダ「はは同感」

マリオ「そっかやソニックは？でどこないなんて珍しい」

ルイーダ「前回のショックから立ち直って無いんだよ因みにシルバ
ーは二日酔い悪化シャドウはシルバーの家で酒を飲まないように見
張り」

マリオ「なるほどな今回はお休み…」

どおおおおん！！！！！！！！！

二人「…」

ルイージ「暇じゃ無くなったね」

音がしたところではファイターが集まっていた

マリオ「何してる？」

マルス「ああダイヤがちょっと黄色い太った物体を凝らしめてるんだ」

黄色い太った物体「違うワリオ様だ！」

ダイヤ「はいはい」

黄色い太った臭いオジサン「違う！」

ダイヤ「これか」

くそジジイ「まんますぎだ！！そして酷いだろ！！」

ダイヤ「こうかー！！」

あほ「いい加減にしろ！！この男みたいな作者！」

皆「ワリオ……」

ダイヤ「こうしてやるー！！」

シュ ドカン バキイ ゴキグチャ ピクピクポーン キラッ

リンク「後半音おかしいしワリオが星になったー！！」

皆「アディオス……ワリオ……」

ダイヤ「明日から旅行いくぞー！！」

皆「はい!？」

ダイヤ「ソニック達には言っておくから準備しろ!！」

皆「なんて気まぐれ」

次回旅行だ

ワリオのあだな（後書き）

ワリオファンの方すいません

旅行だ…よー（前書き）

…はあ

旅行だ…よー

ダイヤ「旅行だよ…」

皆「テンションひくっ!!」

ダイヤ「いろいろあつて…（現実で）」

皆「聞かない方がいいな…」

ダイヤ「じゃあ行こうか…」

空港

ダイヤ「行くのは南国だよ…」

マリオ「南国が楽しみだ」

ダイヤ「はいチケット…因みにシルバーとシャドウは俺と隣だそし

て帰りはソニックとどちらか…」

皆「相変わらずだな…ソニックシリーズ好き…」

ワリオ「俺のが無いぞー!!」

ダイヤ「黙れ下等生物」

皆「怖え…」

そして飛行機内

シルバー「ワリオが…死にそうだ…」

シャドウ「放っておけ目が腐るぞ」

シルバー「結構言っな…お前」

ワリオは飛行機の翼に縛り付けました

ワリオ「オワアアア!!!」

リンク「顔がヤバイな…」

ファルコ「本当に目が腐るな」

ソニック「ワリオってなんでスマブラメンバーになれたんだ？」

皆「確かに!!」

ダイヤ「気にしたら負けだ…」

皆「はあ…（今回ずっとこんなテンション!?!）」

ダイヤ「…」

ルイーダ「大変な事があったのかな…」

ダイヤ「…（そうだよ）」

ピーチ「かわいそうに…」

ワリオ「オワアアア！！！！」

皆「テメエはうるせえんだよお！！」

ワリオ「…なんでこんな目に…」

飛行機内がパニックになりながらも飛行機は南国に向かう…

旅行だ…よー（後書き）

少し小説押さえます…書くの…詳しくは活動報告で…

南国だゝ b y 皆（前書き）

思い詰めから復活！

南国だ〜 by 皆

ダイヤ「ついたぜ〜!!」

ルイージ「もう立ち直ったの!？」

ダイヤ「皆様の励ましをもらってな 不死鳥のごとく復活したぜ」

皆「別にまだ止まってないし…不死鳥って例えが変だろ…」

シャドウ「あんなに思い詰めといてあつさり復活か…困る作者だな…」

ダイヤ「んだよ文句あんのかよーこの黒針鼠が」

シャドウ「…いえありません…」

マリオ「まあこっちの作者の方がいいがな」

皆「たしかに」

ダイヤ「じゃあホテルにチェックインしてくるぞ〜」

皆「おーー!!」

シルバー「楽しみだな」

ピーチ「ええとっても」

マリオ「（シルバー殺してやる…）」

シャドウ「マリオからどす黒いオーラが…」

アイク「シルバーに手を出したら作者に殺られるぞ確実に…」
「……」

ダイヤ「あれ？」

ソニック「どうしたんだ？」

ダイヤ「なにか忘れた気がする…まあいいか」

皆「いやダメだろ!!」

ダイヤ「ワリオがそんなに大事か？」

皆「分かってんじゃん…」

スネーク「まあいらないかもな」

皆「ウンウン」

ダイヤ「意見がまとまった所で…」

皆「出発ー!」

ホテル

係員「どうぞ鍵です」

ダイヤ「部屋わけはゲーム別な」

皆「作者は？」

ダイヤ「もちソニック達と」

皆「聞くまでもなかったか…」

ダイヤ「あーでもスネークとかウォッチなどの一人しかいないキャラはまとまれ」

こうして旅行が始まった…

ワリオ「俺を何とかしろー！」

作者や他のファイターはワリオの事なんぞ頭にも入ってません

南国だろ b y 皆（後書き）

これからも頑張るぞー！！

南国でのゝ（前書き）

ワリオのやられ劇場ゝ

南国で～

ダイヤ「南国には来たが暇だな…」

マリオ「言い場所があるじゃん!」

ダイヤ「どこ?」

マリオ「海だよ海!」

ダイヤ「ソニックが泳げないじゃん」

マリオ「イタズラにはもってこいじゃん」

ダイヤ「よし皆海いくぜー!」

ソニック「反対だ!」

シルバー「泳がなきゃいいじゃん」

ソニック「作者がじつとしてると思うか…？」

シルバー「確かに確実に」

シャドウ「海に落とされるな」

ソニック「…はあ…」

シルバー「だからと言っていかないなんて言ったら…」

ソニック「殺られる…」

海

ソニックは縛り付けて連れてきました

ソニック「作者頼むから海にだけは落とさないでくれー！」

ダイヤ「ええ」

ソニック「頼むから！」

ダイヤ「じゃあ今日はソニックの隣で寝るから」

ソニック「…はい」

そして海で遊んで… 一部流血あり（何故！？）

ダイヤ「楽しかった」（イタズラできなかった…）

皆「ホテルに帰って休もう」（イタズラされなくてよかった…）

リュカ「ってかさ…」

ネス「なに？」

リュカ「あのアホは放っておくの？」

そう言っているうちに飛行機の翼に縛り付けられているアホ（ワリオ）を指差す

ネス「あ・そういえばいたんだ」

リュカ「僕も今思い出した」

ファルコ「あの状態見るのも飽きるな……」

フォックス「作者ワリオおろせば？」

ダイヤ「なんで？」

フォックス「ああしてこうすれば……まだいいだろ？」

ダイヤ「たしかに（^^;）」

ダイヤ「アイク」

アイク「なんだ？」

ダイヤ「耳かして」

アイク「ん」

ダイヤ「ああして…こうしてほしいんだ」

アイク「いいぞ」

ダイヤ「じゃあはいスマッシュボール」

アイク「いつてくる」

ダイヤ「皆もこーい」

皆「了解！」

アイク「はあ!!」

いきなりアイクが最後の切り札を使ってワリオを切り刻む!そして…

アイク「ハア!!」

ワリオ急降下!!!そしてそこに…

マルス「はあ!!」

マルスがちょうどいいタイミングで最後の切り札をあててワリオをぶっ飛ばして…

リンク トウーン「ヤアッ!!」

ワリオが吹っ飛んだ先にいたリンクとトウーンが最後の切り札で切り刻み…

リンク トウーン「はあ!!」

吹っ飛ばし…

ガノン「魔神拳！」

ガノンがぶっ飛ばして…

ダイヤ「皆いまだ〜!!」

皆「おお〜!!」

皆がスマートボムを投げまくり…

ネス「いくよ」

リュカ「うん!!」

ネス リュカ「PKスターストーム!!」

流星がワリオを撃つが…

ダイヤ「こっちにも被害が…!!」

皆にも被害が及んだあと…

ワリオ「…（チーン）」

ワリオは灰になった…

ワリオ「なっていないわ!」

ダイヤ「生きてた（…チツ）」

そしてホテルに帰っていった（ワリオは野宿）

皆さんからの（前書き）

マスター「ダイヤ差し入れが届いたぞ」

ダイヤ「おお！皆を一分以内に集めよう！」

マスター「（キツくないか？）」

皆さんからの

今は皆各自部屋で休んでいます

そこへ…

ピンポンパンポン

皆「なんだよいきなり…」

ダイヤ「え…今から三階の集会場に一分以内に来てください。来ないと殺すか野宿だよー」

皆「何いー！ー！！？？」

皆さん急いで三階の集会場に行きましたそれはもう凄い速さで（笑）

マリオ「ぜえ…ぜえ…」

マルス「はあ…はあ…」

ダイヤ「一分ピッタリ　よくきたね！！ってかなんで息切れしてる？」

皆「当たり前だろ！！」

ダイヤ「ふーん…ソニックとシャドウとシルバーは余裕ぽかったけど？」

マリオ「そりゃあソニック　シャドウは音速だしシルバーは超能力でワープ出来るし！！」

ダイヤ「言い訳にすぎないなあ」

マルス「ワリオは？」

ダイヤ「そこ」

ワリオはボロボロ状態で立っていた前回参照（笑）

ルイーダ「どうしたのいきなり集めて」

ダイヤ「たった今ryoukiさんとしらさんから差し入れが届い

た」

リュカ「何が届いたの？」

ダイヤ「ryoukiさんからはピクミンパイでしらさんからは高級シュークリームだ」

皆「イエイイ」

ダイヤ「はい皆並んで配るから！」

配り終え…

ファルコ「なあ作者…」

ダイヤ「ん？」

ファルコ「なんでワリオにもあげるんだ？」

ダイヤ「別にいいじゃんか。(。二ヤ」

「ファルコ、何かあるな……」

サムス「2つとも美味しいじゃない！」

ルカリオ「良くできてる」

オリマー「私もいつか作ってみたい……」

ワリオ「ふーん……まあ折角だし食ってやるか」

パクッ
ピクミンパイを食べました

ワリオ「ギャアアアアアアアアアア！」

ダイヤ「どうしたワリオ！（ウケル）」

ワリオ「辛い……！！！！！！」

ダイヤ「（そりゃあね）大変だしらさんからいただいた高級シュークリームを食べるんだお前にシュークリームは2個あるんだ！！」

ワリオ「よし！」

パクツ 高級シュークリームを一個食べた

[illegible]

ダイヤ「（いい気味だ）いきなり激甘はまずかったか　ワリオこ
れなら平気だよ」

ワリオ「口が逝ってしまっー」

皆の心の声「逝ってしまえ」

パクッ シュークリーム食べました

ワリオ「…サヨウナラ」

皆「逝ってらっしゃい（黒笑）」

ダイヤ「まだ残ってるよ」

グイツ 余った分押し込んでいる

ワリオ「…」

その後ワリオは動かなかった…

そして皆は横たわったワリオなんか気にせず差し入れを美味しくいただきました

ダイヤ「しらさんの高級シュークリームはただではもらいづらいな

…一個確か100000万ぐらいだよな…そしてryoukiさんのピクミンパイもただなんて気が重い」

皆「確かに」

ダイヤ「起きろクソ!!」

グシャ 腹を蹴った

ワリオ「何だよ!!」

ダイヤ「はいこれ」

ワリオに渡されたのは領収書しかもかなりの金額（ryoukiさんのピクミンパイの分も入ってます）

ワリオ「ふざけるな!!」

ダイヤ「…」チャキツ 銃を構えた

皆「（。。）」

ダイヤ「黙りやがれクソがあああああ……！！！！！！！！！！」

バキュウンバキュウン！！

ワリオ「払います……」

ダイヤ「よろしい」

皆「作者つて怖い……」

ダイヤ「マスター捨ててきて」

マスター「おうよ」

マスターはワリオ掴み持っていた

ソニック「そろそろ部屋に戻るか」

ダイヤ「そうだなでもまずはお礼を言おう」

皆「ryoukiさんしらさんありがとうございます！！」

ダイヤ「さあ部屋に戻って休もう（ソニックの隣）」

皆「ストーカーか」

ダイヤ「ん？なんだい？（黒笑）」

皆「あゝいえなんでも」

そして皆は部屋に戻っていった

追記　ワリオは差し入れを食べたあと三ヶ月味覚がおかしくなっ
たそうです（ざまあみろ）

皆さんからの（後書き）

ありがとうございました

よければ感想下さい

南国で大晦日

マリオ「南国で大晦日か…」

ルイージ「いつもと違って楽しみだね」

ピーチ「年越しそば作ってあげる」

マリオ以外「結構です」

マリオ「別にいいじゃんかよ」

マリオ以外の皆「うるさい」

マリオ「チエッ」

ダイヤ「年越しそばは無しだ!!」

皆「なんで？」

ダイヤ「とにかく無しだ」

シャドウ「嫌いなんだろ」

ダイヤ「いや食えるが好きではない」

シルバー「自分勝手だな……」

ダイヤ「ん？よく聞こえなかった」

シルバー「あゝいえなんでも……」

ダイヤ「来年はやろうかな」

皆「何を？」

ダイヤ「逃走中」

皆「何故やると言いきらない？」

ダイヤ「エリアとか時間とか残り人数賞金とか面倒なものばかりだ

しね」

アイク「別にやってもいいんじゃないか」

ダイヤ「皆やりたいのか？」

皆「一応」

ダイヤ「面倒臭いな……」

ここから小声です

マリオ「ソニック、シャドウ、シルバー行け！」

ソニック「はあ!？」

シャドウ「なんで僕達が……」

シルバー「別にやらなくても……」

ルイージ「他のところではよくやってるじゃん」

シルバー「それが何なんだ？」

サムス「私達もやりたいな〜と…」

ソニック「無理矢理やらせたら俺達死ぬかもだし…」

メタナイト「平気だきにするな」

ソニック「無理だろ！」

ピーチ「作者はあなた達は殺すまではしないわよ 半殺しですむわ

」

針鼠3人組「半殺しでも困る!!」

マルス「シルバーが思いきり作者に甘えればいいじゃん」

シルバー「おいおいおい!!なんだよそれは!!」

マリオ「いやソニックとシャドウが甘えてるのはちょっときついから…」

シルバー「俺がいけと…?」

皆「うん」

シルバー「ふざけるな！」

シャドウ「いいから行け」

シルバー「待て！待て！」

ドンッ 皆がシルバーを押した音

シルバー「うわっ！！」

ダイヤ「シルバーどうしたいきなり」

シルバー「あーえっと…」

皆「頑張れ！」

シルバー「逃走中やってくれ!!頼む!」

ダイヤ「えゝシルバーのたのめと言えど…」

シルバー「皆やりたがってるし…」

ダイヤ「どうしてもか?」

シルバー「ああ」

ダイヤ「やだ」

シルバー「何故に?頼むよ!」(ここで諦めたら皆に殺される!)(「

ダイヤ「えゝ」

シルバー「いいじゃんかよ!!な?」 作者に近づいてる

ダイヤ「う…」

マリオ「結構出来るじゃん…」

リュカ「そうだね」

シルバー「な？いいだろ？」 さらに近づいてる

ダイヤ「わかったよ！！その内やるから！！」

皆「イエーイ！！」

ダイヤ「はあ…」

次回逃走中が始まる！！

皆「次回から！？」

ダイヤ「うん ホテル貸しきるから頑張れ」

皆「本当に気まぐれだ」

南国で大晦日（後書き）

次回から逃走中スタート

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1962z/>

スマブラパラダイス！

2011年12月31日18時54分発行